



若者よ、新たな時代を切り拓け! 日本の未来へKICK OFF!

福島県立富岡高等学校2年

なるさわ なるとわ ますみ
鳴澤 真寿美さん

十代の活躍が眩しい……。それはスポーツ界に於いて、ゴルフで、卓球で、テニスで、十代の選手がメディアに登場し、その活躍ぶりが報じられるたびに、我々は心躍らせ、希望を抱く。しかし社会の別の面に目を転じると、平気で人を殺してしまう少年犯罪や、いじめによる自殺が絶えない。「ニート」や「ひきこもり」が減少する気配もない。

今、生き方を見つけた若者と、見つけられない若者との格差のひろがりが見られている。家庭に於いて、社会に於いて、この今日的課題を打開する方法はあるのだろうか。日本は、格差社会を乗り越えて、夢のある新たな2015年を描くことができるのだろうか。

日本の将来を担う魅力ある若者を世に送り出すために、「家庭」と「社会」の二つの側面からその打開策を提言したい。

2008年8月8日、北京オリンピック開幕!日本は今回のオリンピックでも多くのメダルを獲得した。私はサッカーをやっているの、なでしこJAPANには特に注目している。なでしこが、地元中国を準々決勝で破り、史上初となるベスト4入りを果たしたことをたいへん誇りに思うのであるが、今回のオリンピックでもう一つ注目した点があった。それは、十代の日本代表選手の活躍である。なでしこJAPANの宇津木選手もその一人であり、他にも、柔道女子で銅メダルの中村選手、体操男子で銀メダルの内村選手など、いずれも19歳の若さで日本代表に選出され、日本の期

待に応えたのである。彼らを含め、今回のオリンピックに出場した十代のヤングアスリートたちは、4年後のロンドンや、その先までも活躍が期待できそうだ(もちろん私自身も、なでしこJAPANの一員になって、ロンドンオリンピックへ行きたいと思っている……)。

このような生き方を見つけた若者がいる一方で、見つけられずに社会参加すらできない若者も多い。少年犯罪は減少傾向にあるものの、その凶悪化が指摘されている。「ニート」や「ひきこもり」は合わせて100万人に及ぶとも言われ、またその高年齢化が新たな問題となっている。果たしてそれらの打開策はあるのだろうか。今日の状況を個人の責任として放置しては何も解決しないように思える。社会全体の問題として、解決につながる手だて、システムを考えなくてはならない。

私が所属するサッカーチームでは、「いつでもどこでも(日本でも海外でも)ポジティブな態度で何事にも臨み、自信に満ち溢れた立ち居振舞いのできる人間になる」ことをフィロソフィーと称して目標に掲げている。それは正に、サッカーを通して真の国際人になることをめざしている。当初、私はこの言葉が実感として理解できなかった。だが、後日アメリカに遠征したとき、このフィロソフィーが私の心に強く響いたのである。初めて会ったアメリカチームの選手たちが、試合会場に来ると私たちに握手を求め、日本の文化に触れようと簡単な英語で質問を投げかけてくる。試合直前も、

若者よ、新たな時代を切り拓け! 日本の未来へKICK OFF!

我々一人一人に「GOOD LUCK」と言い、相手の眼を見て笑顔で挨拶をする。気後れしている私たちとは対照的に、その自信に満ち溢れた姿に私は感動すら覚えた。と同時に、さまざまな場面でポジティブに何事にも臨み、自信に満ち溢れた立ち居振舞いができる人材の育成は、日本にこそ、求められているのだと痛感した。

そのためには、若い世代を対象に、育成を視野に入れた環境づくりが重要である。まず、家庭に於いてどうすればそのような人材が育つのか。大切なのはコミュニケーション力を高めるための、親の子供に対する対応である。その際重要なのは、「なぜ?」という問いかけだ。子供にこの言葉をあらゆる場面で投げかけてみよう。すると次第に子供は自分で理由を考え、自分で自分の意思を伝えようとする。そこが重要で、その繰り返しで考える力がつき、人間そのものの成長につながる。親は家庭の中で子供が小さいときから自分で考える力をつけさせる工夫をし、何事にもポジティブに自信を持って行動できるよう導くことが重要なのだ。

また、日本の将来を担う若者を育てるには、厳しい家庭環境が必要であると私は考える。幼い頃から親に甘やかされて育てられると、自分で考える力を養えず、ポジティブな発想ができないため、将来に対する目的意識が育たない。少年犯罪の増加は、そうした家庭環境が背景にあり、無気力な若者をつくり出す結果となっているのではないだろうか。

私は中学3年から親元を離れて寮生活を送っている。洗濯や食事のバランス管理など、あらゆる面で自

分のことは自分で考えて行わなければならない、改めて親の存在の大きさや有り難さを実感した。更に、毎日自分がやってもらってきたことを自分でこなせるようになったことで、自然と感謝する心が持てるようになったばかりでなく、一人の人間として自立心が芽生えてきた。一歩外へ踏み出せば、意識が変わる。目的を持って社会に一歩踏み出せるように、親は家庭の中で子供の考える力を育むことが大切だ。

一方、魅力ある若者を世に送り出すために社会は何ができるのであろうか。「ニート」や「ひきこもり」の若者に、自力で更生を促すのは限界があるであろう。社会の中に、彼らをサポートするシステムをつくり、社会参加できやすい環境の整備を行わなくては、問題はいつまでも解決しない。ニートの問題が日本より早く問題化した欧米では、すでに具体的な対策がとられ、イギリスなどでは、ニートの若者を対象とした職業訓練施設が整備され、ニートの減少につながっていると聞く。日本にも、彼らが社会参加できるためのサポートシステムを社会の中に整備することが何よりも求められているのではなかろうか。この問題を個人のものとしてせず、社会全体で対応することが求められているのである。

家庭では、小さいときから自分で考える力を養う教育を受け、いつでもどこでもポジティブな態度で何事にも臨み、自信に満ち溢れた立ち居振舞いができる若者が育ち、社会では、自ら社会参加できない若者をサポートするシステムが充実し、自信を取り戻した若者が社会で活躍できるようになる。そうなれば、魅力ある若者に支えられた2015年は、閉塞状況とは無

若者よ、新たな時代を切り拓け!
日本の未来へKICK OFF!

縁の、活力ある日本の新たな時代がそこにはあるはずだ。

そして私自身は、「いつでもどこでも（日本でも海外でも）ポジティブな態度で何事にも臨み、自信に満ち溢れた立ち居振舞いのできる人間になる」ために、日々自分で考え、己を鍛え、目的意識を持って国際人への階段を一步一步登って行きたいと思っている。日本の未来へ、そして私の未来に向かって、KICK OFF!